

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170500195
法人名	有限会社 ジョウジマ
事業所名	グループホーム 伊万里
訪問調査日	平成 19 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 27 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500195
法人名	有限会社 ジョウジマ
事業所名	グループホーム 伊万里
所在地	佐賀県伊万里市二里町八谷搦781-1 (電話) 0954-20-4585

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年9月30日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(19年 9 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.0 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
------	-------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(9 月 16 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小島病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

伊万里市郊外の新興住宅地の中で、雄大な山や川を眺めながら、静かにそして穏やかに暮らす入居者の生活が窺える。ひとり一人が地域の中で、土と水と空気と人とふれあい「その人らしく生きていただく」というホームの理念が、四季の移ろいが感じられる自然環境の中でそのまま実践されている。代表と職員が一体となりサービスの質の向上に取り組み、研修への参加や内部の勉強会が活発に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価においては、改善課題は無く、代表と職員が共に、更なる質の向上を目指し、評価の内容について検討が重ねられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が、自己評価を記載し、内部の研修会でその内容と、現在の取り組みに関して検討を行なっている。今回の自己評価では、地域との交流を更に充実させる為、ホームの映写会に地域の老人会を招待したいとの意見が出て計画中である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年4回運営推進会議を行ない、ホームの情報を公開し、出席者からの意見をサービスの向上に役立てている。質問が活発に出て、出席者の前向きな姿勢が窺える。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関ロビーに意見箱を設置したり、意見を気軽に言ってもらえるように日頃から信頼関係作りを努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	新興住宅地ということもあり住民の地域に対する意識が低いといえるが、ホーム自身それを意識し、自治会に加入し、民生委員、婦人会、消防団などと交流の機会をつくり、行事への参加も積極的に行なっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりひとりが地域の中で、土と水と空気と人とふれあい、その人らしく生きていただこう」という理念は、入居者が地域のなかで自然に触れ、自然を感じながら生活して欲しいという職員の思いから作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に理念を唱和し、共有に努めると共に、理念を柱にして毎年、全職員で年間の介護目標を立て、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、民生委員の方に会報を届けてもらったり、婦人会や老人会、地区の消防団と共に、ふれあいの町づくり推進協議会の会員として活躍している。地域の一員として地元の人々と交流することを大切に考えており、夏祭りや運動会など行事への参加も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に評価票を渡し、各職員が取り組んでいる。又勉強会では、皆で自己評価をまとめ、今後の改善点を話し合っている。今回の自己評価を終え、地域とのふれあいの一環として、ホームの映写会に老人会を招待したいとの職員からの意見があり、計画中である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回運営推進会議を行ない、ホームの情報を公開し、出席者からの意見をサービス向上に活かしている。前回の会議で、区長さんよりリスク管理についての質問があり、マニュアル等の説明も行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催するコミュニティーケア会議に出席し、意見発表、事例報告をしたり、キャラバンメイトに参加し、認知症について市民に理解を頂くための啓発活動を行なっている。社協が主催するふれあいステージでホームの入居者が踊りを発表するなど、日頃の活躍が窺える。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族の面会の際、日頃の暮らしぶりを報告すると共に、個々に合わせ電話での近況報告や定期的なホーム便りを郵送したり、金銭管理の報告も行なっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関ロビーに意見箱を設置している。又日頃より意見を聴くように努め、面会時に意見を言ってもらえるように信頼関係の構築に努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎に馴染みの関係を大切にする為、職員を固定配置にしている。離職によるダメージを防ぐ為、職員同士カバーすると共に、家族の面会時に報告し、了承を得ている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修として、入社時の新人研修、毎月の勉強会を行なっている。又研修委員が日常的な育成の仕組みなど計画し、質の向上に努めている。外部研修参加時には報告会を行ない周知に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のコミュニティーケア会議での事例発表や、関係団体等との、外部の勉強会で同業者との交流を行ない、サービスの質の向上に役立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の自宅に面接に出かけたり、見学の受入や体験入居をして頂くなど、ホームを理解し、納得した上で入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	パンフレットに「入居者の方と共に作る温もりの家」とあるように、入居者と職員が一緒になりゆっくりした生活を作り上げている事が窺えるホームである。野菜作りや高菜漬けを教わるなど、入居者から学ぶことも多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を聞いたり日常の中で観察し、家族の意向も含め丁寧なアセスメントにより、可能な限り利用者本位のサービスを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	直接本人から要望など聞き取りをしたり、担当スタッフや家族の意向も合わせ介護計画を作成している。アセスメントの手法としてセンター方式を活用し、その人らしく暮らしつづける支援に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居されてから、2週間、1ヶ月、3ヶ月と短時間で計画の検討を行ない、計画期間に添って見直しをすると共に、状況の変化に応じて現状に即した計画を立てている。また検討のための評価も随時行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームで認知症デイサービスを取り入れたり、自宅帰省の支援、お寺参りや、病院受診の為の外出支援など、柔軟に行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からの主治医を引き続き受診できるよう配慮したり、希望により、ホームの協力病院を紹介している。受診の際には、日常の状況記録を持参し、確実な情報提供に努めている。歯科も要望により往診して頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに対する方針を伝えている。身体的な低下が見られた場合は、家族、医師を交えカンファレンスを行ない、今後の方針を立てている。看取りをした経験も数件あり、本人や家族の意向に添いたいというホームの考えが窺える。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけはプライバシーを尊重したものであり、個人情報の保管にも配慮している。接遇の外部講師を招いて研修会を行なう等、入居者の尊厳を守る為職員の意識向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、入居者の希望を聞き本人のペースに合わせて過ごして頂くよう努めている。センター方式の24時間アセスメントシートにより、個人毎に1日の過ごし方を把握し、入居者本位の生活が支援できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を食べる支援だけでなく、献立、買い物、準備、配膳といった食事のための過程を大切に考えている。入居者と職員と一緒に同じ物を、会話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備しており、夕食後や寝る前など本人の希望により、自由に入浴して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、出来る事、やりたい事を把握し、職員が共有できるように記録している。買い物、ドライブ、家事、手芸など能力に合わせ、幼稚園の先生をされていた入居者にピアノの演奏をして頂くなど楽しんでできることに視点を置いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季が感じられる景色の中、自由に散歩をしたり、ドライブにでかけたり、お寺参りなど、日常的に外出できる体制である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を職員が理解し、日中は全ての出入口を開放しているため、入居者はいつでも出入りが出来る。外出時にはさりげなくついて行き、疲れると車に乗ってもらうなど、臨機応変な対応ができるように、入居者の状況に合わせた職員の確保も出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火避難訓練は、年2回(日中・夜間)行っている。消防署への要請や、地域の方へも案内状を配布し誘導の協力を得るなどの働きかけをしている。緊急連絡網やマニュアルも整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じた支援をしている。毎食の摂取量や、摂取状況など記録し、栄養補助飲料での補給など、栄養の確保に努めている。水分量は、体調や必要に応じ、観察記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、不快な音や臭いもなく、清潔である。季節の花や入居者の写真の飾りつけにも工夫が窺える。教育勅語や昔の映画のポスター、懐かしいタンスなどが配置され、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、在宅での暮らしの延長が感じられるように、出来るだけ使いなれたものを準備して頂いている。ベット、カーテンも本人と家族で相談され、それぞれの好みに合わせた居室になっている。仏壇なども持参され、個性がある。		